

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社 花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番12号		
自己評価作成日	平成30年10月3日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470400132-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は地域と共に「和気あいあい」をモットーに利用者に関わっている。利用者本位で家庭的な雰囲気と地域との関わりを大切に、笑顔とチームワークで地域のなかで安心して暮らせるようケアに取り組んでいる。近くに小学校、高校があり生徒との交流も開設以来続けている。家族や地域の方も頻りに足を運ばれ何でも話しやすい雰囲気を心掛け利用者が明るく穏やかに暮らせる場所でありたいと願っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一建物内にデイサービス事業所や居宅介護支援事業所もあり、お互い協力しあって支援にあたっている。利用者の家族の面会が多く、入居期間の短い利用者には毎日面会がある。また、運営推進会議への参加も2~3家族の出席が毎回あり開かれた事業所である。将棋の好きな利用者の相手にボランティアを通じて将棋相手を紹介してもらう等、利用者にとってとても励みとなり介護度が軽くなった等、地域の方と一緒に生活したり、交流する工夫を取っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家族との関係を保ちながら地域とともに「和気あいあい」とすごせることを理念としている。管理者や職員は家庭的な雰囲気と地域のかかわりを大切にしながら元気に和気あいあいと生活できるよう日々のケアに取り組んでいる	施設理念を基に、利用者も職員も「和気あいあい」を目標に生活している。玄関や居間には大きく書いてよく解るように掲げている。ミーティングや申し送り時には施設理念の内容を確認し、実践につなげる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の小学校の子供たちが施設を訪問し歌や演奏を聞かせてくれたり一緒にゲームを楽しんだりの交流が続いている	小・中・高校生の慰問や体験学習を毎年受け入れ交流している。自治会にも加入しており、清掃や防災訓練に参加活動している。今年からデイサービス事業所を地域に開放して介護予防的なサロンをはじめた。積極的に地域とのつながりに努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学生の福祉体験、高校生の介護実習を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と一緒に行事に参加してもらい楽しい時間を過ごしていただいている。地域包括支援センター民生委員、自治会長からの情報やアドバイスをいただいたり家族の要望なども聞きサービスの向上に役立っている	年6回定期的に開催され、利用者・家族の参加がいつも2～3組あり活発な意見交換がされている。身体拘束委員会も兼ねた会議を今年から取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新手続や運営推進会議録の提出など包括支援センターに出向いている。市が主催の研修には積極的に参加し情報交換などを常に図っている	運営推進会議時に相談や意見をもらっている。介護保険の手続き関係は広域連合に出向いて情報交換をしている。研修会の案内や実習生の受け入れについても市を通じて連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に拘束しないケアを話し合い玄関も日中は鍵をかけない、身体拘束、言葉、精神的、生理的な抑制をかけないケアにとりくんでいる	ヒヤリハット事例が出た時にはその都度話し合ったり、ミーティングの時に「身体拘束マニュアル」について研修している。玄関前の道路の交通量が多いが、玄関の鍵はかけずに支援するなど見守りがしっかりされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待に関する話し合いを行っている。身体的にはもちろん言葉の暴力に関しても職員同士で注意しあい防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が住み慣れた場所で安心して暮らせるようにとの思いで一人ひとりの状態に合わせたケアを行うことが大切だと話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人や家族と話し合う機会を持ち見学時には安心して入居できるよう十分説明し契約や解約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に意見や要望を気軽に話し合えるように心がけ毎月訪問の介護相談員とも何でも話し合い要望があればできる限り日々のケアに反映させている	家族意見は面会時や運営推進会議の時にしっかりと聴くようにしている。利用者の前などで言いにくい場合は事務所などを用意して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や介護の場にていつでも自由に意見や要望やアイデアを聞き入れケアの質の向上などに活かしている	会議で提案したり、毎日の業務の中でグループホーム長に提案できる。解決がむづかしい事例は本部まであげ提案出来る体制は出来ている。個人面談も定期的にあり、問題解決に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に勤務態度や実績又研修参加等を反映させるとともに給与水準の見直し等にも反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修等には可能な限り交代で参加できるようにしている、研修後にはレポート提出、会議では報告しあっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	亀山市地域密着型サービス施設連絡会主催の勉強会に参加し近隣のグループホーム等と情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを伝えてもらいやすい雰囲気作りを心がけ入居前に家族と共に施設を訪問してもらい今までの生活などを伺いながら本人の希望にこたえるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い要望、困っていることを聞き信頼関係を築き入居後もできる限り家族とのコミュニケーションをとり本人や家族が安心できるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなことが本人にとって大変なのか考え、安心した生活を送ることができるよう職員同士話し合い柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族のように接している、本人のできる得意分野では一緒に手伝って頂き、家族的な雰囲気作りを大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には利用者の日頃の様子を伝え共に喜んだりびっくりされたりされる。家族の要望で外出し、気分転換をして頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共になじみの美容院や地域の行事などには、積極的に出かけた、買い物などに行ったり又家族や親戚知人等訪ねて来やすい雰囲気作りに努めている	通院や美容院へ行った時に知人が声かけをしてくれる事もある。家族と法事や墓参りに出掛けたり、毎日面会に来てくれる家族もあり大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりできることが違うので利用者さん同士の関係を理解しそれとなく職員が間に入ってより良い関係を築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設入所後も訪問したりしている また家族にも近況を尋ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の様子や会話などから本人の希望や思い些細な事にも気付けるよう努め職員間で利用者本位のサービス提供ができるかなど話し合っている	夜勤や入浴時に「ポツリ」と思いを話された時等は申し送りノートに書き職員で共有し実践に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から今までの生活歴などを聞き無理に変えることなく一人ひとりに合わせたサービスに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろから生活リズム、できること出来ないことを見極め毎日の生活リズムを把握して個人の状態に応じた過ごし方をしてもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会議で利用者の様子、家族の希望、今後のケアなど話し合い必要な都度計画の見直しをしている	毎月のミーティングの時にモニタリングを行い3か月に1回評価をし、半年ごとに見直しをしている。家族の意見は面会時に確認して計画書に反映している。必要時には医師の意見も取り入れ現状に即した計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート各種チェック表に日々の様子や変化を見つけだしたら記録し職員間で情報の共有を行い話し合い、計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診の付き添いや買い物など状況に応じた対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域の方から情報をいただいたり、亀山市や協働センターでの催し物に出かけている。それが地域との交流の場にもなり、地域とかわりながら豊かな暮らしができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の受診がある。往診以外にも随時の往診や総合病院の紹介を受けられるようになっている。また緊急時も24時間指示が受けられるようになっている	入居時に説明して協力医に変更している。毎月2回の訪問診療があり、緊急対応もしてもらう。他科受診は原則家族が通院介助しているが、職員の同行支援もあり家族とは連絡を取り合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスに看護師がおり、又協力医からもアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が見舞い、主治医や家族、病院関係者などと治療経過や退院後のことを話し合い早期に退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にリビングウイルを記入して頂き、可能な限り希望に沿った支援ができるよう、また重度化の状態になれば再度家族と話し合い医師の協力の下看取を支援している	昨年度は3名の看取りを実施した。入居時に「人生の最終段階の医療について」の説明をして確認書を提出してもらっている。それによって終末期には話し合いをして支援している。事業所としては「看取りは行う。」方針である。	何度も看取り支援を経験しているが、「看取りについての方針やマニュアル、職員のフォロー体制」の統一化や研修を実施され安心して支援が出来ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサービスの看護師や応急手当の研修を受けた職員から教わり、急変や事故発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所に声掛け併設のデイサービスとの合同避難訓練を年2回実施している。災害時の対応でその都度避難できるような役割分担を確認している	年2回デイサービス事業所と合同訓練を実施している。備蓄や防災頭巾等の用意や避難方法、場所の確認も出来ている。地域との連携体制についても運営推進会議で検討している。	日々利用者の状況の変化もあるので突然やってくる災害に対して、すばやく対応出来るように解りやすい災害別役割分担表等の作成や、様々な想定訓練をお願いする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し利用者を尊重した声掛けや対応をするように心がけている	利用者の事を外部に漏らさない事や、写真入りちらしを出す時なども許可をもらっている。利用者の話を聴く時も人格を尊重して最後まで丁寧に聴くよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の意思や思いを確認し、利用者と職員が何でも話せるような環境を作れるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースですごして頂いている。希望があればできる限り対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開設時からお世話になっている床屋さんに訪問していただき、本人の好きな髪型にしている。又その日の気分でお化粧される方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立を作り、できる範囲で手伝っていただいている	職員が交替でメニューづくりから調理まで行っており、利用者の好みのメニューも取り入れ楽しい食事となっている。職員も見守り支援しながら同じ食事をしている。消毒後の食器拭きは出来る利用者の役割となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分量など一人ひとりに応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員が見守り、口腔内の清潔が保たれるよう介助しケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握しトイレ誘導している。日中は布パンツで過ごせるよう自立に向けた支援をしている	昼間は布パンツに替えて排泄の自立にむけた支援をしている利用者もある。出来る限り自立の継続を促す為に、食事前後や就寝前後の習慣を活かした支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるよう朝の体操は毎日行っている。また通じのいい食材など工夫して提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある場合、無理強いをせずできる限り本人の希望やペースに合わせていつでも入浴できるように支援している	週3回入浴している。床屋が見えた日は必ず入浴したり、長湯の好きな利用者は思いだけ入浴してもらったりとそれぞれの希望で入浴している。車椅子利用者はデイサービス事業所の特別浴槽を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後とその人の体調に合わせて居室で休んでもらっている。夜間不眠時には話し相手になったり寝具や室温に気を配り、安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の状況、処方箋の内容を職員全体で把握し服薬支援を行っている。医者による薬の変更があった場合は職員全体が周知し状態の変化など観察し報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意とすることを把握し得意分野で活躍できる場を作っている。その日の状況により買物や散歩など気分転換が図れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に出かけたり、季節の花見、外気浴を兼ねたオープンカフェなど気分転換をはかっている	日常的には玄関前でお茶をしたり、花の手入れ、洗濯物の取り入れなどを行っている。花見(梅、アジサイ、菖蒲、コスモス)やお雛様見物に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	亀山市、普段の買い物など本人の希望の品を本人で買えるよう付き添い時に援助を行う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自分の思いを家族などにうまく伝えられるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やその時期の言葉の書道作品また職員と作成した季節の貼り絵などを飾り季節を感じられるようにしている	台所と対面に居間兼食堂があり、高い天井の天窗から明りが入る。廊下には季節の花、共同作品、行事写真が飾ってある。入り口付近にはソファが置かれゆっくりとくつろげる空間もあり居心地よく過ごせる工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの片隅にソファを置いていろんな人と過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んだり、家族との写真や自作の作品を壁に貼ったりしている。どこにいても家族とのつながりを感じられるように工夫している	ベット・クーラーは備品であるが、衣装ケース・テレビ・机等、使い慣れた物が置かれている。好きな俳優の写真や家族写真を飾ったりして、思い思いの居室になっておりどの部屋も広くて明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室の入り口には表札をかけている。居室、フロアで不安に感じることはないか職員と話し合い落ち着いて過ごせるように工夫している		